

| | | |
|---|---|---|
| ③ | ② | ① |
| イ | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">おとうさん</div> がわたしに <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">かた車</div> をしてくれたから | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">どちらが</div> 大きなりんごを <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">とれるか</div> きょうそうする ことにした |

「かいせつ」

文しょうのつぎの場^ばしよに書かれています。

先週、わたしはおとうさんとおかあさんと弟の
 マサトの四人でりんごがりに行きました。りんご
 園には、まっかなりんごがなった木がたくさんあ
 りました。^①わたしは弟と、どちらが大きなりんご
 をとれるか、きょうそうすることにしました。

「あつ。」

^③わたしは大きなりんごを見つけました。でも、
 手をのばしても、りんごにとどきません。

「どうしよう。あのりんごなら、ぜったいマサト
 にかてるのに。」

高いところにあるりんごを見つめっていると、きゅ
 うにりんごが目の前にきました。

「どうだ。これならとれるだろう。」

^②おとうさんが、わたしにかた車をしてくれたので
 す。わたしは、

「うん。ありがとう。」

と言って、その大きなりんごをとりました。大き
 なりんごを手に入れることができたわたしは、心
 の中で「マサトにかつた」と思いました。

| | | |
|-------------------------------|---------------------------------|------------------------------------|
| ③ | ② | ① |
| <p>なめだした</p> <p>ぼくの顔をぺろぺろ</p> | <p>「みゃあ。みゃあ。」と言って、</p> <p>イ</p> | <p>兄弟であり、家ぞくであり、</p> <p>友だちなのだ</p> |

「かいせつ」

文しょうのつぎの場ばしよに書かれています。

「みゃあ。みゃあ。」

きのう、ミケの子どもが生まれた。ミケは子ね
 このころから家でかっているねこだ。ぼくとミケ
 は何をするにもいつもいっしょだった。①ぼくに

とってミケは、兄弟であり、家ぞくであり、友だちなのだ。だから、うれしそうに子ねこの顔をぺろぺろなめるミケを見て、ぼくもうれしくなった。
 ②ミケがぼくのふくをひっぱる。

「どうしたの、ミケ。」

「にゃあ。にゃあ。」

ぼくに、「こっちに来い」って言っている。ぼくはミケのあとをついて行った。子ねこの前に行くとき、ミケはうれしそうにぼくに話しかけた。

「にゃあ。にゃあ。にゃあ。にゃあ。」

ミケはぼくに子ねこたちをしようかいしてくれたのだ。この子はこうでね、そっちの子はこうでねって。③ぼくはうれしくなって、子ねこたちをだき

あげた。すると、子ねこたちは

「みゃあ。みゃあ。」

と言ってぼくの顔をぺろぺろなめだしたんだ。ぼくはわらいながらみんなに言った。

「よろしくね。」

みんなも「よろしく」って「にゃあ、にゃあ。みゃあ、みゃあ。」と話した。

| ③ | ② | ① |
|--|---|---|
| <p>おねがい してとってもらった</p> <p>近くにいた おじさんに</p> | ウ | <p>木 がたくさんあった</p> <p>(まっかな)りんご がなった</p> |

「かいせつ」

文しょうのつぎの場^ばしよに書かれています。

きのう、ぼくはおとうさんとおかあさんとおねえちゃんの四人でりんごがりに行きました。⁽¹⁾り

んご園には、まっかなりんごがなった木がたくさんありました。ぼくはおねえちゃんと、どちらが大きなりんごをとれるか、きょうそうすることにしました。

ぼくが大きなりんごをさがしてキョロキョロしているとき、おねえちゃんが

「あっ。」

と言って、どこかに走って行ってしまいました。きっと大きなりんごを見つけたにちがいありません。⁽²⁾ぼくは、おねえちゃんにぜったいまけないぞと思いがらさがしました。しばらく歩いていると、大きなりんごの木を見つけました。首がいたくなるくらい見上げると、大きなりんごがありました。

「ふっふっふ。あれならぜったいに、ぼくのかちだ。」⁽³⁾

ぼくは近くにいたおじさんにおねがいして、大きなりんごをとってもらいました。大きなりんごを手に入れたぼくは、心の中で「これで、ぼくのかちがきまった」と思いました。



| | | |
|--------------------|---|---------------------|
| ③ | ② | ① |
| しょうかい して くれた | ア | ミケの 子どもが 生まれた |
| ぼくに 子ね たちを | | |

「かいせつ」

文しょうのつぎの場ばしよに書かれています。

「みゃあ。みゃあ。」

①
 きのう、ミケの子どもが生まれた。ミケは子ね
 このころから家でかっているねこだ。ぼくとミケ
 は何をするにもいつもいっしょだった。ぼくとっ

てミケは、兄弟であり、家ぞくであり、友だちな
 のだ。だから、^②うれしそうに子ねこの顔をペロ
 ペロなめるミケを見て、ぼくもうれしくなった。
 ミケがぼくのふくをひっばる。

「どうしたの、ミケ。」

「にゃあ。にゃあ。」

ぼくに、「こっちに来い」って言っている。^③ぼく
 はミケのあとをついて行った。子ねこの前に行く
 と、ミケはうれしそうにぼくに話しかけた。

「にゃあ。にゃあ。にゃあ。にゃあ。」

ミケはぼくに子ねこたちをしょうかいしてくれた
 のだ。この子はこうでね、そっちの子はこうでねっ
 て。ぼくはうれしくなって、子ねこたちをだきあ
 げた。すると、子ねこたちは

「みゃあ。みゃあ。」

と言ってぼくの顔をペロペロなめだしたんだ。ぼ
 くはわらいながらみんなに言った。

「よろしくね。」

みんなも「よろしく」って「にゃあ、にゃあ。みゃ
 あ、みゃあ。」と話した。



| | | |
|-------|--|---|
| ③ | ② | ① |
| ドラミング | <p>木に あな をあけて、 す 中のアリ を食べる</p> | <p>「木をつつく」ということから 木 のかわ の中 にかく れて いる 虫 を食べる</p> |

「かいせつ」

文しょうのつぎの場しよに書かれています。

夏休み、わたしは家ぞくで山の中にキャンプにいきました。林の中を歩いていると、

「タタタタ……。」

と木をつつくような音が聞こえてきました。そうです。キツツキが木をつついて音です。

キツツキは森や林にすむ鳥です。「木をつつく」ことから、キツツキという名前がつけました。日本には十一しゅるいのキツツキがいますが、せかには二百しゅるいくらいいます。

キツツキは、がんじょうな足で木のみきや、えだの下がわにつかまって、^②木のかわの中にかくれている虫を食べます。また、木にあなをあけて、すの中のアリを食べることもあります。

木などをはげしくつついて「タタタタ……。」という音をだしますが、これにはいみがあります。^③

音をだすことで自分のなわばりをしゅちようしているのです。これを、ドラミングといいます。森や林の中を歩くときは、この音をたよりにさがせばキツツキが見られるかもしれません。

しかし、さいきんでは森や林の木が切られ、どんどんへっているため、キツツキのすみかやえさをとる場しよがなくなっています。そのため、ぜつめつがしんぱいされているしゅるいもいるのです。



| | |
|---|--|
| ① | 「木をつつく」ということから |
| ② | ドラミング |
| ③ | 森や林の木が切られ、 どんどんへっっているため、 キツツキのすみかや えさをとる場しよが なくなってきたから |

「かいせつ」

文しょうのつぎの場しよに書かれています。

夏休み、わたしは家ぞくで山の中にキャンプにいきました。林の中を歩いていると、

「タタタタ……。」

と木をつつくような音が聞こえてきました。そうです。キツツキが木をつついて音です。

キツツキは森や林にすむ鳥です。「木をつつく」ことから、キツツキという名前がつけました。日本には十一しゅるいのキツツキがいますが、せかには二百しゅるいくらいいます。

キツツキは、がんじょうな足で木のみきや、えだの下がわにつかまって、木のかわの中にかくれている虫を食べます。また、木にあなをあけて、すの中のアリを食べることもあります。

木などをはげしくつついて「タタタタ……。」という音をだしますが、これにはいみがあります。

音をだすことで自分のなわばりをしゅちょうしているのです。これを、ドラミングといいます。森や林の中を歩くときは、この音をたよりにさがせばキツツキが見られるかもしれません。

しかし、^③さいきんでは森や林の木が切られ、
 ② どんどんへっっているため、キツツキのすみかやえさをとる場しよがなくなってきました。そのため、ぜつめつがしんぱいされているしゅるいもいるのです。